



I 調査の概要

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
また、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

2 調査の対象学年及び調査を実施した学校・児童生徒数

	対象学年	実施学校数(校)	児童生徒数(人)
小学校	第6学年	17	905
中学校	第3学年	8	903
合計		25	1,808

3 調査の内容

(1)教科に関する調査 (国語、算数・数学、英語)	出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの学年・教科に関し、 ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等 ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容 調査問題では、上記①と②を一体的に出題。
(2)質問紙調査	・児童生徒に対する質問紙調査～学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等 ・学校に対する質問紙調査～指導方法に関する取組、教育条件の整備の状況等

4 調査方式

悉皆調査(対象は小学校6年生、中学校3年生)

5 調査期日

平成31年4月18日(木)

6 調査結果の解釈等に関する留意事項

本調査の結果については、児童生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることや、学校における教育活動の一側面であることなどを踏まえる必要がある。

II 結果の概要

1 教科に関する結果の概要

- 小学校6年生は、すべての教科で、全道、全国平均を上回っています。
- 中学校3年生は、すべての教科で、全道、全国平均を上回っています。

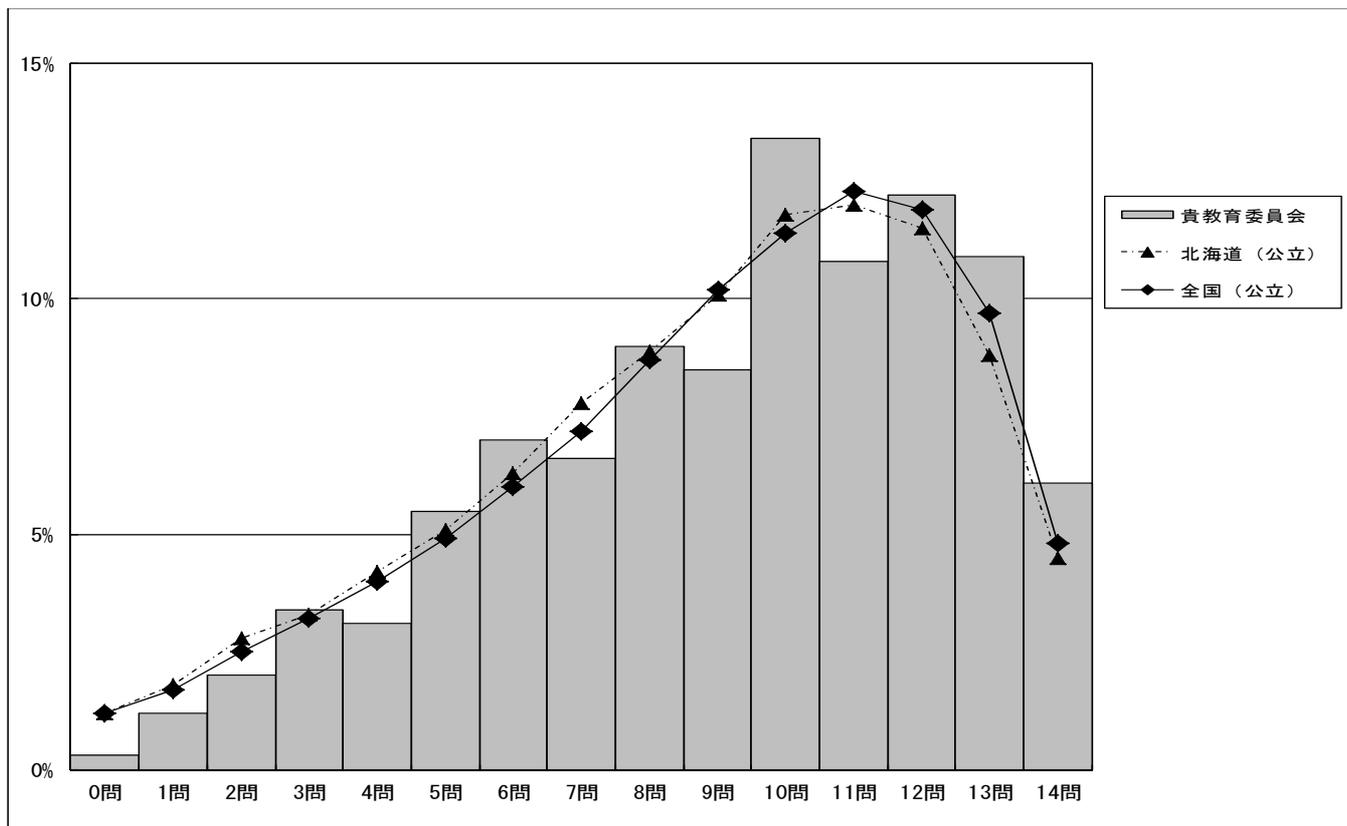
2 質問紙調査に関する結果の概要

- 「授業中の私語が少なく、落ち着いていると思う」割合は、小学校6年生、中学校3年生ともに全国平均を大きく上回り、大変落ち着いた状態にあると言えます。
- パソコンや電子黒板、実物投影機等を活用して授業を行った割合は、小学校6年生、中学校3年生ともに全国平均を大きく上回り、ICT(情報通信技術)を活用した授業が積極的に行われています。
- 「家庭学習の取組として、家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えている」割合は、小学校6年生、中学校3年生ともに全国平均を大きく上回り、家庭学習の習慣化のためにいろいろな指導が行われています。

Ⅲ 各教科の結果

1 小学校 「国語」

<正答数分布グラフ>



(横軸：正答数，縦軸：割合) 棒グラフが江別市の分布グラフ ▲が北海道 ◆が全国(公立)です。

	平均正答数	平均正答率 (%)
江別市教育委員会	9.2 / 14	66
北海道	8.8 / 14	63
全国	8.9 / 14	63.8

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率 (%)		
			江別市教育委員会	北海道 (公立)	全国 (公立)
	全体	14	66	63	63.8
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	3	72.2	71.0	72.3
	書くこと	3	55.4	52.7	54.5
	読むこと	3	83.7	81.2	81.7
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	5	56.8	52.9	53.5

複数の領域にまたがる設問もあります。

<結果>

- 平均正答率は66%で、北海道を3.0ポイント、全国を2.2ポイント上回っています。
- 学習指導要領の領域の平均正答率は、「書くこと」が0.9ポイント、「読むこと」が2.0ポイント、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」が3.3ポイント全国を上回り、「話すこと・聞くこと」が0.1ポイント全国を下回っています。

<正答率の低い設問及び学習指導の改善点>

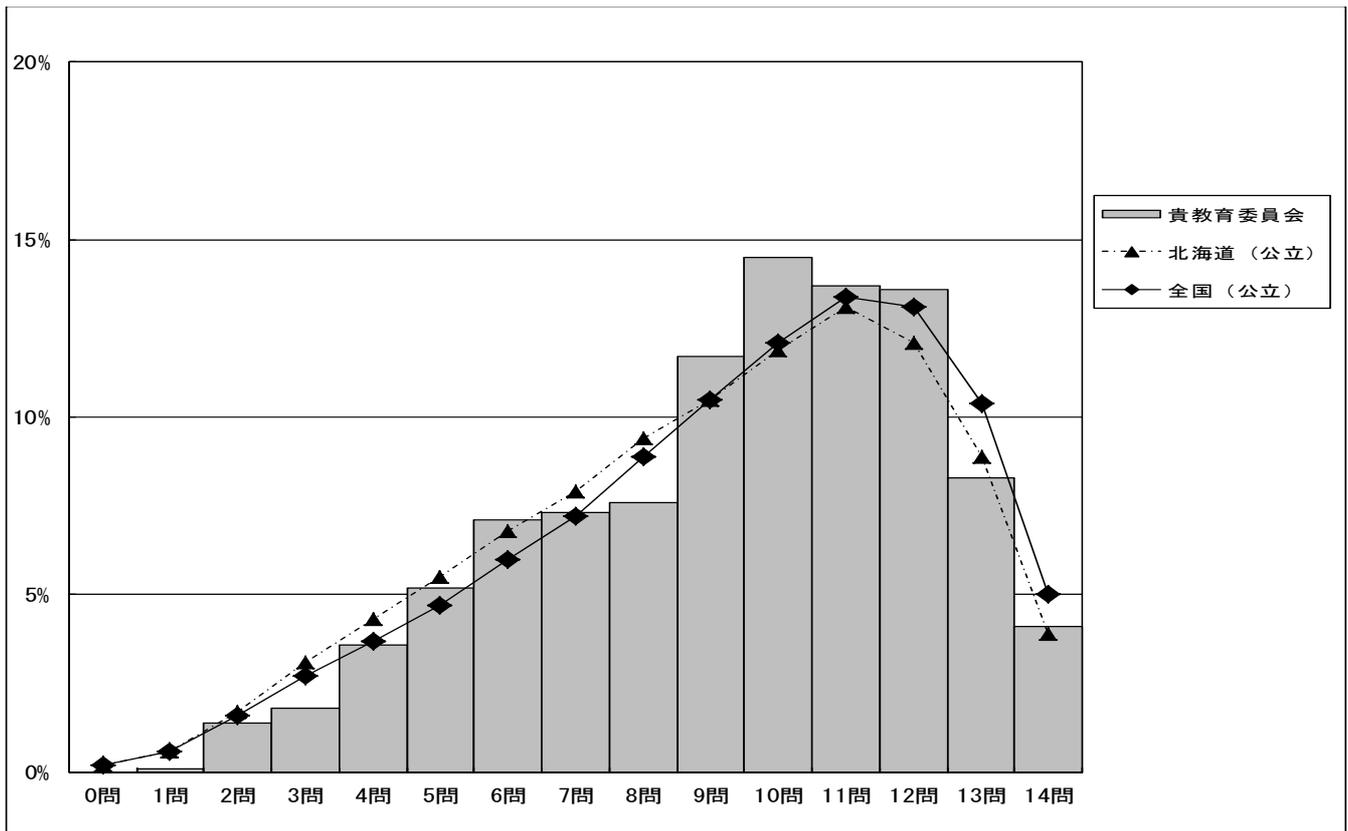
■ 「図表やグラフなどを用いた目的を捉える」

図表やグラフの特徴を理解し、目的に応じて図表やグラフを作成できるようにすることが大切です。教材として図表やグラフを使った学習では、目的や効果を考えて表現できるように指導することが大切です。

■ 「話し手の意図を捉えながら聞き、話の展開に沿って、自分の理解を確認するための質問をする」

インタビューを行い情報を集める際に、目的に応じて質問を工夫することや、話し手の意図を捉えながら聞き、聞き出したい内容を整理できるようにすることが大切です。

2 小学校 「算数」 〈正答数分布グラフ〉



(横軸：正答数、縦軸：割合) 棒グラフが江別市の分布グラフ ▲が北海道 ◆が全国(公立)です。

	平均正答数	平均正答率 (%)
江別市教育委員会	9.3 / 14	67
北海道	9.0 / 14	64
全国	9.3 / 14	66.6

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率 (%)		
			江別市育委員会	北海道 (公立)	全国 (公立)
全体		14	67	64	66.6
学習指導要領の領域	数と計算	7	62.5	60.6	63.2
	量と測定	3	53.2	50.2	52.9
	図形	2	78.4	76.0	76.7
	数量関係	7	67.0	65.7	68.3

複数の領域にまたがる設問もあります。

〈結果〉

- 平均正答率は67%で、北海道を3.0ポイント上回り、全国を0.4ポイント上回っています。
- 学習指導要領の領域の平均正答率は、「量と測定」が0.3ポイント、「図形」が1.7ポイント全国を上回り、「数と計算」が0.7ポイント、「数量関係」が1.3ポイント全国を下回っています。

〈正答率の低い設問及び学習指導の改善点〉

- 「2010年の市全体の水の使用量が1980年の市全体の水の使用量の何倍か読み取ることができる」

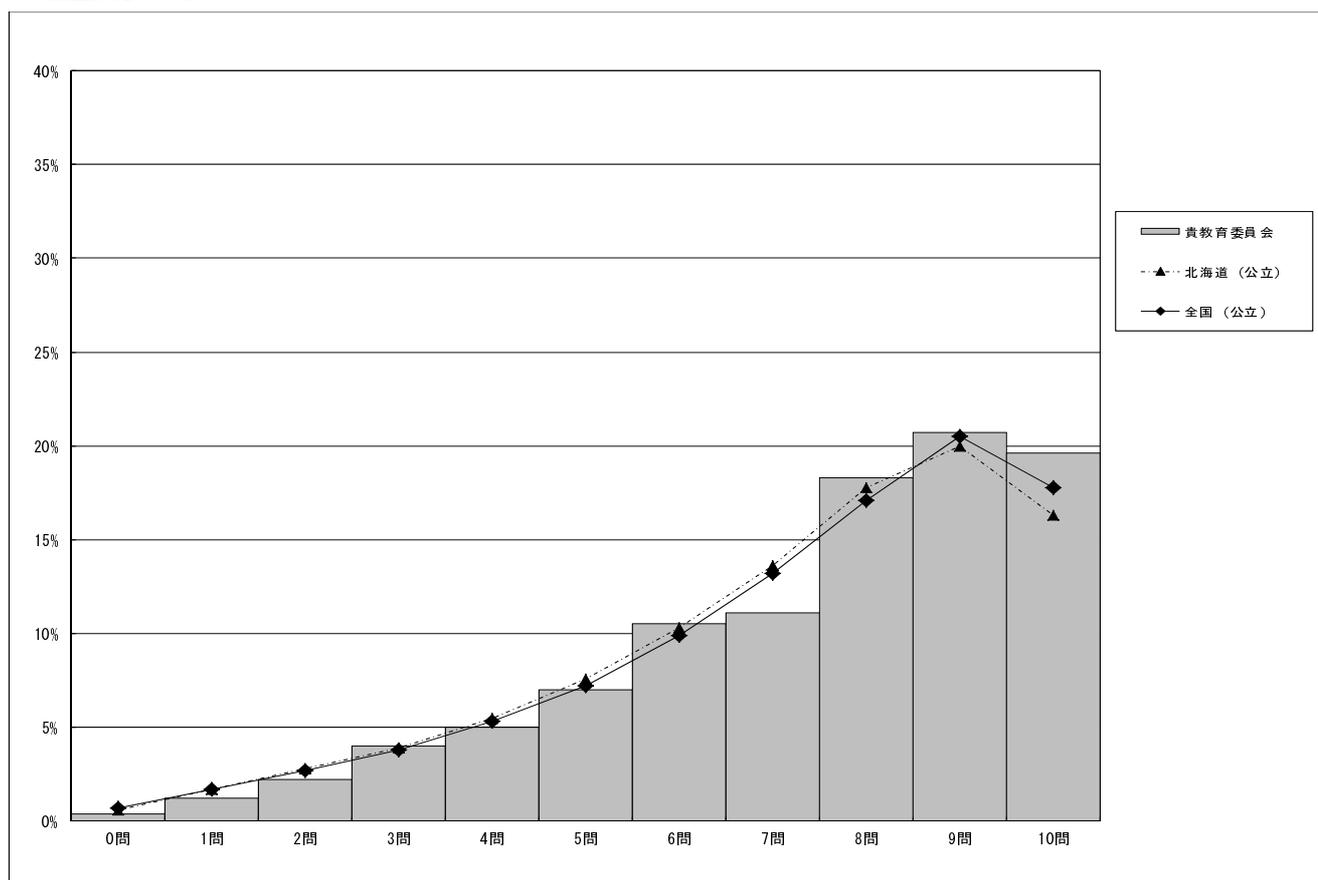
資料の特徴を理解するために、目的に応じて、資料の中の数量の大きさの関係を読み取ることができるようになることが大切です。棒グラフに表された数量の大きさの関係を直感的に理解できるようにするために、棒と同じ長さのテープを作り、棒の横に並べてその長さを比較する活動も考えられます。

- 「示された除法の式の意味を理解している」

除法に関して成り立つ性質は、少数や分数の除法の計算の仕方や、同じ大きさを表す分数などでも活用されています。目的に応じて、具体物や図、数直線などを用いて考察する学習活動が考えられます。

3 中学校 「国語」

<正答数分布グラフ>



(横軸：正答数, 縦軸：割合) 棒グラフが江別市の分布グラフ ▲が北海道 ◆が全国(公立)です。

	平均正答数	平均正答率 (%)
江別市教育委員会	7.4 / 10	74
北海道	7.2 / 10	72
全国	7.3 / 10	72.8

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率 (%)		
			江別市教育委員会	北海道 (公立)	全国 (公立)
	全体	10	74	72	72.8
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	3	70.8	69.4	70.2
	書くこと	2	83.9	81.1	82.6
	読むこと	3	73.1	71.2	72.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	2	71.1	68.6	67.7

複数の領域にまたがる設問もあります。

<結果>

- 平均正答率は74%で、北海道を2.0ポイント、全国を1.2ポイント上回っています。
- 学習指導要領の領域の平均正答率は、「話すこと・聞くこと」が0.6ポイント、「書くこと」が1.3ポイント、「読むこと」が0.9ポイント、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」が3.4ポイント全国を上回っています。

<正答率の低い設問及び学習指導の改善点>

■ 「文章に表れているものの見方や考え方について自分の考えをもつ」

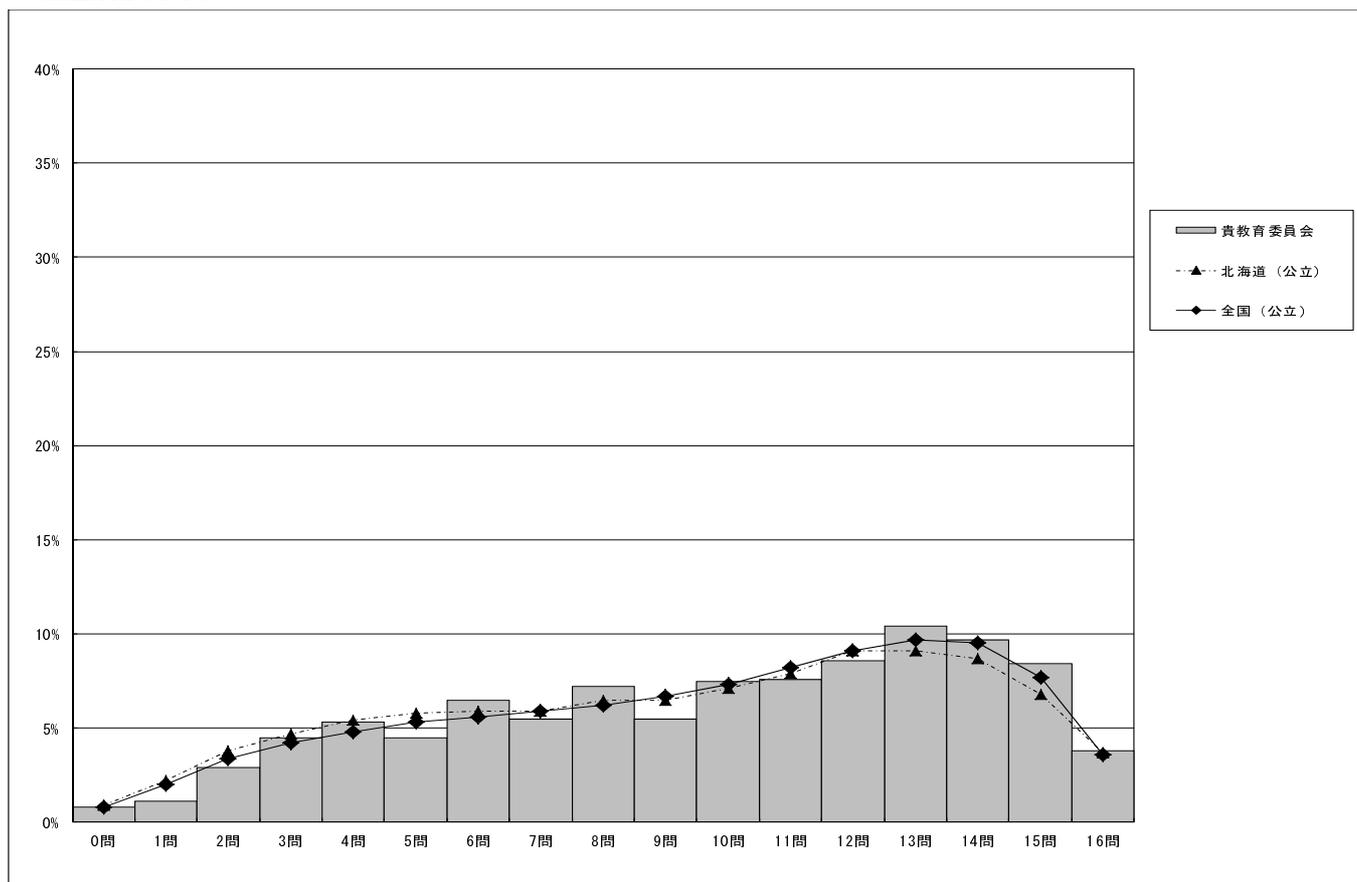
文学的な文章を読む際には、書き手のものの見方や考え方に共感すること、疑問をもつこと、批判することなどを通して、読み手としてのものの見方や考え方を更に広げていくように指導することが大切です。

■ 「話し合いの話題や方向を捉え、自分の考えをもつ」

話し合いをする際には、話題を的確に捉え、自分の考えを持ちながら話し合いに参加するように指導することが大切です。司会の進め方や話し合いの記録の仕方などを確認し、記録を取りながら話し合いを行うなどの学習活動が考えられます。

4 中学校 「数学」

<正答数分布グラフ>



(横軸：正答数，縦軸：割合) 棒グラフが江別市の分布グラフ ▲が北海道 ◆が全国(公立)です。

	平均正答数	平均正答率 (%)
江別市教育委員会	9.7 / 16	61
北海道	9.3 / 16	58
全国	9.6 / 16	59.8

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率 (%)		
			江別市教育委員会	北海道 (公立)	全国 (公立)
全体		16	61	58	59.8
学習指導要領の領域	数と式	5	65.2	62.1	63.8
	図形	4	73.6	71.2	72.4
	関数	3	41.8	38.8	40.8
	資料の活用	4	56.0	54.6	56.3

複数の領域にまたがる設問もあります。

<結果>

- 平均正答率は61%で、北海道を3.0ポイント、全国を1.2ポイント上回っています。
- 学習指導要領の領域の平均正答率は、「数と式」が1.4ポイント、「図形」が1.2ポイント、「関数」が1.0ポイント、全国を上回り、「資料の活用」が0.3ポイント全国を下回っています。

<正答率の低い設問及び学習指導の改善点>

■ 「事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる」

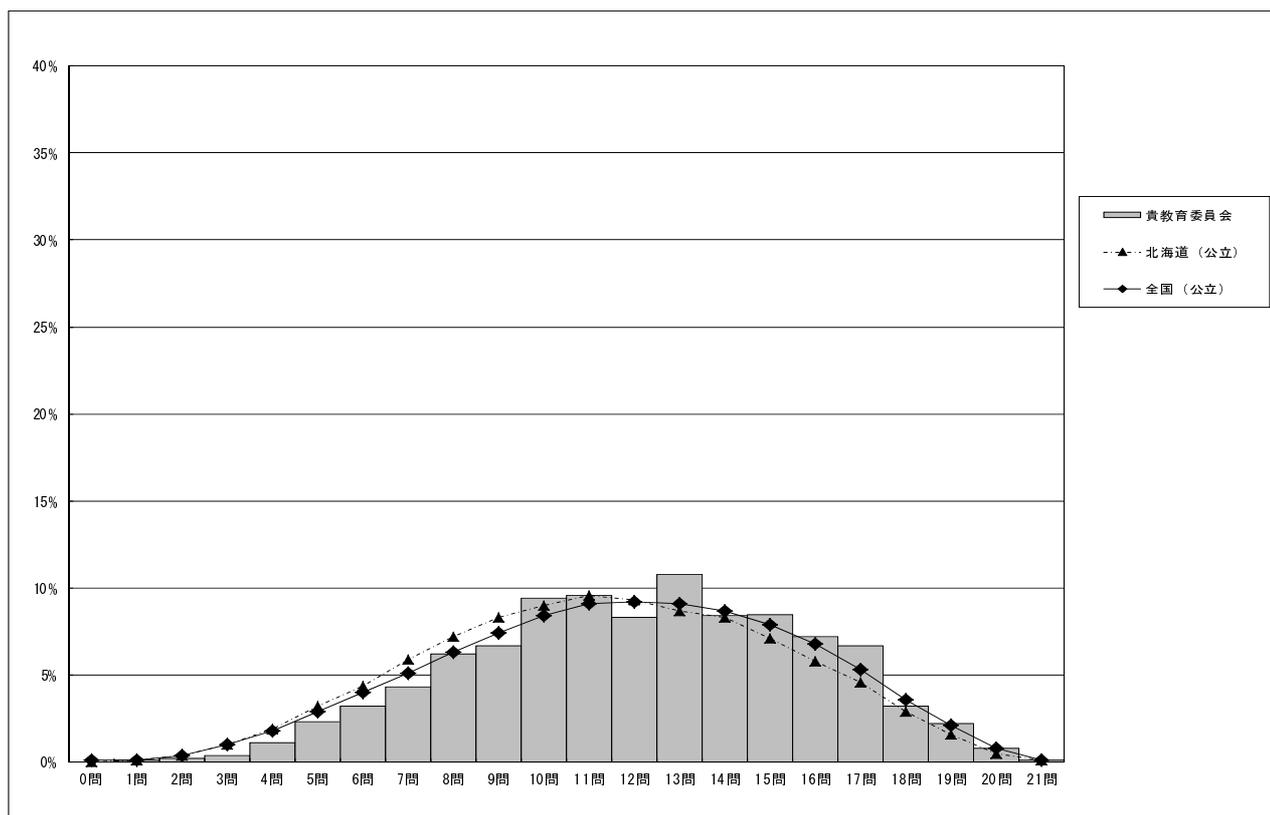
様々な問題を数学を活用して解決できるようにするために、問題解決の方法や手順を説明する場面を設定し、表や式、グラフなどの「用いるもの」とその「用い方」についての的確に説明できるように指導することが大切です。

■ 「結論が成り立つための前提を考え、新たな事柄を見だし、説明することができる」

与えられた事柄や予想した事柄が成り立つかどうかを、具体例をあげて比較する活動を通して、結論が成り立つための前提を考え、見だした性質を基に事柄を数学的に説明する場面を設定して指導することが大切です。

5 中学校 「英語」

<正答数分布グラフ>



(横軸：正答数, 縦軸：割合) 棒グラフが江別市の分布グラフ ▲が北海道 ◆が全国(公立)です。

	平均正答数	平均正答率 (%)
江別市教育委員会	12.1 / 21	58
北海道	11.4 / 21	54
全国	11.8 / 21	56.0

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率 (%)		
			江別市教育委員会	北海道 (公立)	全国 (公立)
	全体	21	58	54	56.0
学習指導要領の領域	聞くこと	7	69.8	67.9	67.9
	話すこと (参考値)				
	読むこと	6	56.9	53.4	55.6
	書くこと	8	47.5	42.7	45.8

複数の領域にまたがる設問もあります。

<結果>

- 平均正答率は58%で、北海道を4.0ポイント、全国を2.0ポイント上回っています。
- 学習指導要領の領域の平均正答率は、「聞くこと」が2.1ポイント、「読むこと」が1.3ポイント、「書くこと」が1.7ポイント全国を上回っています。
- ※ 「話すこと」に関する問題の結果については、都道府県別、指定都市別の公表は行わない。(平成31年度全国学力・学習状況調査に関する実施要領)

<正答率の低い設問及び学習指導の改善点>

- 「書かれた内容に対して、自分の考えを示すことができるよう、話の内容や書き手の意見などをとらえることができる」
読んだことについて自分の考えを述べる指導で、説明文を読み、書き手の主張を数文でまとめる、ペアやグループで尋ね合ったり伝え合ったりする、自分の意見として簡潔に書いてまとめるなどの言語活動を工夫することが大切です。
- 「与えられた情報に基づいて、3人称単数現在時制の肯定文を正確に書くことができる」
文法事項を指導する際は、コミュニケーションの目的を達成するために、どのように文法が使われているかに着目させ、必要性や有用性を実感させながら、その文法事項を扱った言語材料を、聞いたり、読んだり、話したり、書いたりして様々な場面で繰り返し使用する活動などが考えられます。

IV 質問紙調査の結果

1 「児童・生徒質問紙」

(1) 家庭の生活

① 朝食を「毎日食べている」、「どちらかといえば毎日食べている」

- ・小学校6年生 94.4%で、昨年度より1.2ポイント高く、全国平均より0.9ポイント低い。
- ・中学校3年生 92.7%で、昨年度より1.4ポイント高く、全国平均より0.4ポイント低い。

② 「毎日同じくらいの時刻に寝ている」、「どちらかといえば同じくらいの時刻に寝ている」

- ・小学校6年生 82.0%で、昨年度より4.1ポイント高く、全国平均より0.6ポイント高い。
- ・中学校3年生 76.7%で、昨年度より7.6ポイント高く、全国平均より1.3ポイント低い。

朝食摂取について、小学校6年生、中学校3年生ともに昨年度を上回り、全国平均を下回っています。就寝時刻について、小学校6年生、中学校3年生ともに昨年度を上回り、小学校6年生は全国平均を上回り、中学校3年生は全国平均を下回っています。子どもの生活リズムの向上のため、学校、家庭、地域等が連携して改善に向けた取組をさらに充実する必要があります。

(2) 自己肯定感

① 自分には、よいところが「あると思う」、「どちらかといえばあると思う」

- ・小学校6年生 80.6%で、昨年度より4.4ポイント低く、全国平均より0.6ポイント低い。
- ・中学校3年生 66.5%で、昨年度より11.1ポイント低く、全国平均より7.6ポイント低い。

② 先生は、自分のよいところを「認めてくれている」、「どちらかといえば、認めてくれている」

- ・小学校6年生 86.8%で、昨年度より4.0ポイント高く、全国平均より0.7ポイント高い。
- ・中学校3年生 79.4%で、昨年度より0.9ポイント高く、全国平均より2.1ポイント低い。

③ 将来の夢や目標を「もっている」、「どちらかといえば、もっている」

- ・小学校6年生 81.7%で、昨年度より3.5ポイント低く、全国平均より2.1ポイント低い。
- ・中学校3年生 66.5%で、昨年度より3.2ポイント低く、全国平均より4.0ポイント低い。

自己肯定感、将来の目標等について、小学校6年生、中学校3年生ともに、全国平均を下回っています。先生はよいところを認めてくれていると思う割合については、小・中学生ともに昨年度を上回り、小学校6年生は全国平均を上回り、中学校3年生は全国平均を下回っています。市内の小・中学校では、一人一人のよさや可能性を見付けて伝えたり、集団における所属感や達成感を高める取組を進めていますが、自己肯定感や自己有用感の醸成は継続して取り組むことが必要です。

(3) 学校の授業以外の勉強

① 家で、自分で「計画を立てて勉強している」、「どちらかといえば、している」

- ・小学校6年生 76.2%で、昨年度より1.9ポイント高く、全国平均より4.7ポイント高い。
- ・中学校3年生 50.3%で、昨年度より5.9ポイント低く、全国平均より0.1ポイント低い。

② 平日に、学校の授業以外に1時間以上勉強する(学習塾や家庭教師に教わっている時間も含む)

- ・小学校6年生 63.2%で、昨年度より0.7ポイント高く、全国平均より2.9ポイント低い。
- ・中学校3年生 67.8%で、昨年度より2.2ポイント低く、全国平均より2.0ポイント低い。

家庭学習について、平日に学校の授業以外に1時間以上勉強する割合は、小学校6年生、中学校3年生ともに全国平均を下回っています。家で自分で計画を立てて勉強している割合は、小学校6年生は、全国平均を上回っていますが、中学校3年生は全国平均を下回っています。学習内容を確実に身に付けるために、学校からの宿題はもとより各家庭において学習に取り組む時間帯やテレビを見る時間、ゲームをする時間等について望ましい生活習慣を確立し、休日も含め継続的に取り組むようにする必要があります。

(4) 社会に対する興味・関心

① 新聞を「ほぼ毎日読む」

- ・小学校6年生 7.0%で、昨年度より0.9ポイント高く、全国平均と同様である。
- ・中学校3年生 5.8%で、昨年度より0.5ポイント低く、全国平均より1.4ポイント高い。

② 今住んでいる地域の行事に「参加している」、「どちらかといえば、参加している」

- ・小学校6年生 58.8%で、昨年度より2.6ポイント高く、全国平均より9.2ポイント低い。
- ・中学校3年生 41.2%で、昨年度より1.4ポイント高く、全国平均より9.4ポイント低い。

新聞をほぼ毎日読むについては、小学校 6 年生は全国平均と同様で、中学校 3 年生は全国平均を上回っています。地域行事への参加について、小学校 6 年生、中学校 3 年生ともに、昨年度を上回っていますが、全国平均を下回っています。住んでいる地域に関心をもたせるために、地域の行事に参加したり、社会の出来事に関心をもたせ、必要な情報を取捨選択する能力を育成する観点から、新聞を読んだりニュース番組を見たりする習慣を身に付けさせることが大切です。

(5) 思いやり

① 「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」

- ・小学校 6 年生 90.3%で、昨年度より 0.4 ポイント高く、全国平均より 5.3 ポイント高い。
- ・中学校 3 年生 94.4%で、昨年度より 10.1 ポイント高く、全国平均より 0.7 ポイント低い。

② 人の役に立つ人間になりたい「当てはまる」、「どちらかといえば当てはまる」

- ・小学校 6 年生 95.8%で、昨年度より 0.7 ポイント低く、全国平均より 0.6 ポイント高い。
- ・中学校 3 年生 94.1%で、昨年度より 1.2 ポイント低く、全国平均より 0.2 ポイント低い。

「いじめは、どんな理由があってもいけないと思う」、「人の役に立ちたい」割合は、小学校 6 年生は、全国平均を上回っていますが、中学校 3 年生は全国平均を下回っています。各学校で実施されているいじめ根絶に向けたアンケートや児童生徒主体の集会活動を継続するとともに、学校の教育活動全体で人への思いやりや規範意識をはぐくむ道徳教育の推進を継続していくことが必要です。

(6) 読書習慣

① 学校の授業時間以外に、「平日、1 日 30 分以上読書をする」(教科書、漫画や雑誌を除く)

- ・小学校 6 年生 35.9%で、昨年度より 3.9 ポイント低く、全国平均より 3.9 ポイント低い。
- ・中学校 3 年生 29.7%で、昨年度より 5.6 ポイント低く、全国平均より 2.7 ポイント高い。

② 読書は、「好き」、「どちらかといえば、当てはまる」

- ・小学校 6 年生 76.1%で、全国平均より 1.1 ポイント高い。
- ・中学校 3 年生 72.8%で、全国平均より 4.8 ポイント高い。

平日に 30 分以上読書する割合は、小学校 6 年生は、全国平均を下回り、中学校 3 年生は上回っています。読書が好きな割合は、小学校 6 年生、中学校 3 年生ともに全国平均を上回っています。各学校では、朝読書の実施やボランティアによる読み聞かせ、市の情報図書館司書の巡回等による図書館の整備など、読書環境の充実が図られ、読書の習慣づくりが推進されています。

(7) 主体的・対話的で深い学びの視点による学習への取り組み

① 学級で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている「そう思う」、「どちらかといえば、そう思う」

- ・小学校 6 年生 74.8%で、昨年度より 3.0 ポイント低く、全国平均より 0.7 ポイント高い。
- ・中学校 3 年生 69.0%で、昨年度より 8.6 ポイント低く、全国平均より 3.8 ポイント低い。

② 授業で課題に対して、自ら考え、自分から「取り組んでいる」、「どちらかといえば、取り組んでいる」

- ・小学校 6 年生 79.6%で、昨年度より 1.2 ポイント高く、全国平均より 1.9 ポイント高い。
- ・中学校 3 年生 70.9%で、昨年度より 3.8 ポイント高く、全国平均より 3.9 ポイント低い。

③ 授業で自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てを「工夫して発表している」、「どちらかといえば、工夫して発表している」

- ・小学校 6 年生 61.4%で、昨年度より 0.2 ポイント低く、全国平均より 1.1 ポイント低い。
- ・中学校 3 年生 51.2%で、昨年度より 0.3 ポイント低く、全国平均より 4.6 ポイント低い。

授業で学級やグループの中で、自分たちで課題を立て、その解決に向けて、話し合う学習活動に取り組んでいる割合は、小学校 6 年生は、全国平均を上回り、中学校 3 年生は全国平均を下回っています。自分の考えを文章や話の組み立てを工夫して発表している割合は、小学校 6 年生、中学校 3 年生ともに、全国平均を下回っています。各学校では、主体的・対話的で深い学びの視点に立ち、子どもたちが、主体的に考え、判断し、表現する活動を意図的に設定し、授業改善を積極的に推進する必要があります。

(8) 英語の学習

- ① 英語の授業では、原稿などを準備することなく（即興で）自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合う活動が「よく行われている」、「どちらかといえば行われている」
 - ・中学校3年生 64.2%で、全国平均より1.3ポイント高い。
- ② 英語の授業では、聞いたり読んだりしたことについて、生徒同士で英語で問答したり意見を述べ合ったりする活動が「よく行われている」、「どちらかといえば行われている」
 - ・中学校3年生 79.4%で、全国平均より2.0ポイント高い。
- ③ 英語の授業では、聞いたり読んだりしたことについて、その内容を英語で書いてまとめたり自分の考えを書いたりする活動が「よく行われている」、「どちらかといえば行われている」
 - ・中学校3年生 74.0%で、全国平均より0.6ポイント低い。

中学校3年生は英語の授業で原稿などを準備することなく（即興で）自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合う活動が行われている割合は、全国平均を上回っています。英語で聞いたり読んだりしたことについて、生徒同士で英語で問答したり意見を述べ合ったりする活動の割合は、全国平均を上回っていますが、英語で聞いたり読んだりしたことについて、英語で書いてまとめたり自分の考えを書いたりする活動の割合は、全国平均を下回っています。英語を読んだり聞いたりして一文一文ではなく、目的や場面などに応じて概要や要点をとらえる言語活動の充実、即興のやりとりをはじめ、話すこと・書くことの発信の言語活動を充実させることが重要です。

2 「学校質問紙」

(1) 学習規律

① 「授業中の私語が少なく、落ち着いていると思う」

- ・小学校6年生 76.5%で、昨年度と同様であり、全国平均より37.7ポイント高い。
- ・中学校3年生 87.5%で、昨年度より12.5ポイント低く、全国平均より34.3ポイント高い。

② 「学習規律の維持の徹底をよく行った」

- ・小学校6年生 88.2%で、昨年度より5.9ポイント低く、全国平均より30.4ポイント高い。
- ・中学校3年生 100%で、昨年度と同様であり、全国平均より36.2ポイント高い。

「授業中の私語が少なく、落ち着いている」割合は、小学校6年生、中学校3年生ともに全国平均を大きく上回っています。学習規律の徹底を図る割合も全国平均を大きく上回っています。各学校における私語をしない、話をしている人の方を向いて聞く、授業開始のチャイムを守るなどの学習規律が、丁寧に指導されており、江別市の小・中学校は大変落ち着いた状態にあると言えます。

(2) 家庭学習

① 前年度までに、家庭学習の取組として、家庭での学習方法を具体例を挙げながら教えた（教科共通）

- ・小学校6年生 88.2%で、昨年度より5.8ポイント高く、全国平均より38.3ポイント高い。
- ・中学校3年生 75.0%で、昨年度より12.5ポイント低く、全国平均より36.1ポイント高い。

家庭学習の取組として、家庭での学習方法を具体例を挙げながら教えた割合は、全国平均を大きく上回っています。江別市の各小・中学校では、学習内容を確実に定着させるために、家庭での学習方法を具体的に指導し家庭における学習の習慣化を図る取り組みが推進されています。

(3) ICTを活用した授業

① 前年度、大型提示装置（プロジェクター、電子黒板等）等のICTを1クラスあたり週1回以上授業で活用した

- ・小学校6年生 100%で、昨年度と同様であり、全国平均より19.2ポイント高い。
- ・中学校3年生 100%で、昨年度と同様であり、全国平均より19.2ポイント高い。

パソコンやプロジェクター、電子黒板、実物投影機などを活用した授業の実施状況は、小・中学校ともに全国平均を大きく上回っています。江別市の各小中学校では、児童生徒の学習意欲を高め、分かりやすい授業が行われるよう、すべての学級に電子黒板を設置するなど、ICTを活用した授業を積極的に推進しています。

(4) 学校運営

- ① 生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルの確立を「よく行った」

- ・小学校6年生 82.4%で、昨年度より11.7ポイント低く、全国平均より45.1ポイント高い。
- ・中学校3年生 87.5%で、昨年度と同様であり、全国平均より53.6ポイント高い。

教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルの確立を行っている割合は、小学校、中学校ともに、全国平均を大きく上回っています。江別市の小中学校では、「計画－実行－評価－改善」の一連のサイクルによって学校改善を図る取組を継続して行っています。

(5) 全国学力・学習状況調査の活用

① 全国学力・学習状況調査の自校の分析結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するための活用を「よく行った」

- ・小学校6年生 100%で、昨年度と同様であり、全国平均より57.5ポイント高い。
- ・中学校3年生 87.5%で、昨年度と同様であり、全国平均より53.0ポイント高い。

全国学力・学習状況調査の自校の分析結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用した割合は、小学校、中学校ともに、全国平均を大きく上回っています。江別市の小中学校では、学校がチームとして学力向上の取組を継続して行っています。

(6) 小学校教育と中学校教育の連携

① 平成30年度の全国学力・学習状況調査の分析結果について、近隣の小中学校と成果や課題を共有した

- ・小学校6年生 41.2%で、昨年度より5.9ポイント低く、全国平均より21.6ポイント高い。
- ・中学校3年生 37.5%で、昨年度より25.0ポイント低く、全国平均より16.8ポイント高い。

平成30年度の全国学力・学習状況調査の分析結果について、近隣の小中学校と成果や課題を共有した割合は、小学校6年生、中学校3年生ともに全国平均を上回っています。江別市の小中学校では、各中学校区で学力における共通課題等を小中学校間で明確にし、学力の向上に向けて、成果を検証する取組が行われています。

(7) 家庭や地域との連携

① 前年度、保護者や地域の人が学校の美化、登下校の見守り、学習、部活動支援、学校行事の運営などの活動に「よく参加している」

- ・小学校6年生 82.4%で、昨年度と同様であり、全国平均より17.8ポイント高い。
- ・中学校3年生 50.0%で、昨年度より12.5ポイント低く、全国平均より11.8ポイント高い。

② ①の保護者や地域の人との協働による取組は「学校の教育水準の向上に効果があった」

- ・小学校6年生 82.4%で、昨年度より11.8ポイント高く、全国平均より34.4ポイント高い。
- ・中学校3年生 62.5%で、昨年度より12.5ポイント低く、全国平均より28.4ポイント高い。

「保護者や地域の人が学校の美化、登下校の見守り、学習、部活動支援、学校行事の運営などの活動に参加している」割合、保護者や地域の人との協働による取組が「学校の教育水準の向上に効果があった」割合は、小学校6年生、中学校3年生ともに全国平均を上回っています。江別市の小中学校では、「特色のある学校づくり」として、地域の特性を踏まえて取組実践項目を掲げ、教育関係者、地域・保護者が協力し合い、教育活動の充実を図る取組を推進しています。また、江別市の全小・中学校に、退職教員などの教員免許を持つ学習サポート教員を配置し、複数の教員が指導するティーム・ティーチングや長期休業中・放課後に補足的な学習を行い、基礎学力の定着に大きな役割を果たしています。

(8) 英語の授業

① 前年度、原稿などの準備をすることなく（即興で）自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合う言語活動を「よく行った」、「どちらかといえば行った」

- ・中学校3年生 100%で、全国平均より34.9ポイント高い。

② 前年度、生徒が英語に接する機会を増やし、教室を実際のコミュニケーションの場とする観点で授業を英語で「よく行った」、「どちらかといえば行った」

- ・中学校3年生 100%で、全国平均より14.0ポイント高い。

③ 前年度、英語担当教師とALT（外国語指導助手）との間で授業のねらいや活動の意図、各学級や一人一人の生徒の実態等について共通認識を持ち、協力して授業を「よく行った」、「どちらかといえば行った」

- ・中学校3年生 100%で、全国平均より6.6ポイント高い。

中学校3年生は英語の授業で、原稿などの準備をすることなく（即興で）自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合う言語活動を行っている割合は、全国平均を上回っています。生徒が英語に接する機会を増やし、教室を実際のコミュニケーションの場とする観点で授業を英語で行った割合は、全国平均を上回っています。英語担当教師とALTとの間で授業のねらいや活動の意図、各学級や一人一人の生徒の実態等について共通認識を持ち、協力して授業を行った割合は、全国平均を上回っています。江別市の中学校では、英語の授業で、英語によるコミュニケーションを重視し、学級の実態を共通認識したALTとの協同授業が行われています。

参考引用文献

平成31年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査 授業アイデア例（国立教育政策研究所教育課程研究センター）
平成31年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査 報告書（文部科学省国立教育政策研究所）